

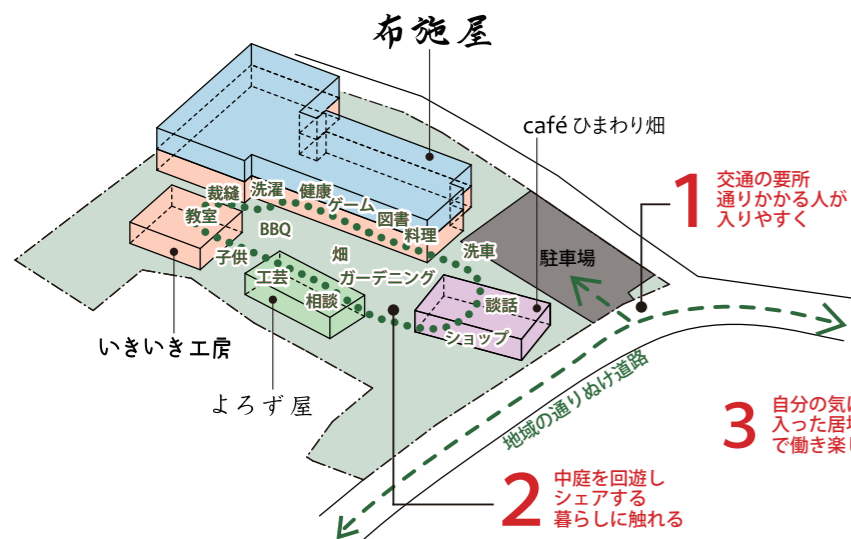
昔ながらの
良き暮らしを
次の世代に
伝える

お年寄りは地域風土に根付いた暮らしの知恵を伝え、いきいきと過ごしていただきます。スタッフは見知らぬ暮らし、新しい発見に触れることができます。

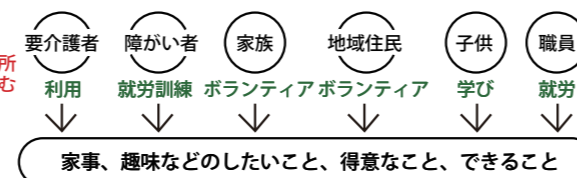


高齢になっても認知症になっても、そして障がいがあっても、住み慣れた地域・自宅で暮らし続けることを支える拠点づくりを目指しました。

そのために、施設の利用者だけでなく地域の人も一緒に作業する中で、信頼関係ができ、困りごとにはみんなで解決していくようなお互い様の関係づくりができる地域サロンのような福祉施設を考えました。



- みんなに愛着を持ってもらえる工夫として、
- ①地域の人も気軽に立ち寄れる建物配置
 - ②楽しいことが在り在りと見える中庭の風景
 - ③自分に合った居場所が見つけれられる多様な場
 - ④やりたい！気持ちを動かすスタンバイ OK 状態を計画しました。



- 1 利用者が座って調理できるアイランドキッチン をダイニングテーブルと隣接させて、参加しやすい状況をつくっています。地域に伝わる家庭の味(イナゴ佃煮、タニシ汁等)をスタッフとつくり披露したり、お菓子をつくります。
- 2 壁側にはスタッフが調理するキッチンを配置し、最大45食程度をしっかり提供できる設備としています。
- 3 メインの食堂の隣には、静養もできる畳コーナーがあります。木のフレームが適度に空間を区切り、落ち着いた雰囲気をつくります。
- 4 自宅の洗濯物を持ち寄り、洗濯コーナーでみんなで家事をすることもできます。

